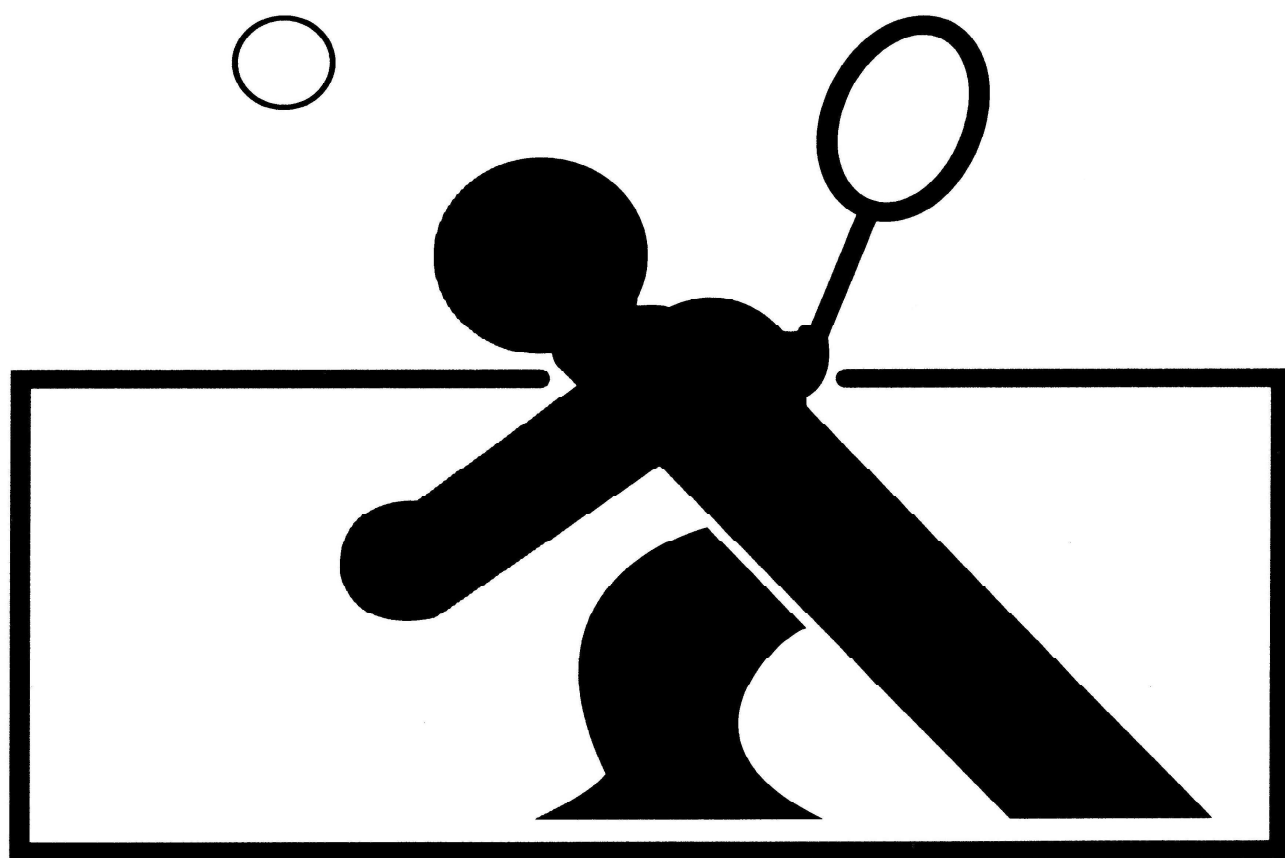
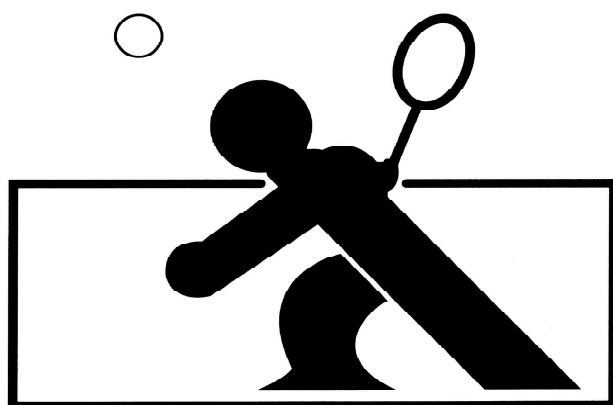


ネオテニス ルールブック



八王子市ネオテニス協会



八王子市ネオテニス協会

八王子市ネオテニス協会

令和6年11月23日改正

ネオテニスのあゆみ

平成 8 年 4 月、八王子市体育指導委員協議会（現：八王子市スポーツ推進委員協議会、以下「体指協」という。）において、「誰でも、いつでも、どこでも、手軽な用具で、生涯にわたり楽しめる、八王子生まれのスポーツを作ろう。」と、49 名の体育指導委員（以下「体指」という。）が動き出しました。

しばらくして、第 10 地区選出の故石山健一氏が「こんなスポーツを考えている。」と発表したのがこのスポーツの始まりです。すぐに実技研修で取り上げ、石山さんの指導の下全員で体験しましたが、この時点ではまだスポーツとは言えないレベルでした。その後、体指協会長から石山さんに「バドミントンコートでバドミントンラケットを使いボールを打ち合うなら、ネットを下げてテニスにしたらどう？」と提案がありました。石山さんは、元高校教諭でテニスのインターハイや全国大会出場経験のある地区の真下さんに相談をし、ボールの選定だけでも約 1 年かかりましたが、ある程度、競技としての形が整ったため、再度実技研修を実施し、体指全員の意見を体指協研修部で取りまとめ、ルール、審判法を条文化し「ネオテニス」が出来ました。

平成 10 年より、市民体力づくりの多くの地区やブロックにお願いし、講習会を実施するなどを繰り返し、平成 11 年 3 月 14 日に第 1 回市民ネオテニス大会を甲の原体育館で開催するに至りました。28 チームの参加があり、参加者の居場所が無いくらいでしたので、翌年の第 2 回大会からは市民体育館で実施することとしました。また、初心者講習会（ネオテニス教室）、審判講習会など定期的に実施しました。

平成 12 年度には、教育委員会がビデオ作成費の予算を取ってくださいましたので、体指全員で出演者となり作成し、12 月から販売しました（売上は、市の収入。）。

ネオテニスがスポーツとして確立されたと判断し、行政委員の体指が抱えるのではなく、いつかは協会をとの思いを実現するため、平成 16 年 6 月 22 日に八王子市ネオテニス協会設立に向けて発起人 5 名を決定しました。メンバーは、和田喜久夫、藤木寿勝、石山健一、山崎勲介、山本保仁です。発起人会では、規約案等の検討作成、設立説明会の開催と同時に会員受付開始、役員候補者選任など行い、同年 10 月 4 日に役員会を開催する事が出来ました。役員会では、理事を選任し、設立発会式・総会の準備にかかり、役員案、事業計画案、予算案、役員等名簿、会員証（この時点での会員数 182 名）、招待状の作成など、何とか乗り切ることが出来ました。

平成 16 年 11 月 23 日八王子市ネオテニス協会発会式・設立総会及び記念祝賀会が、たくさんのご来賓や会員のみなさんにご参会いただき、盛大に開催することが出来ました。経過報告を、発起人代表（和田喜久夫）より説明、設立総会では、協会規約等、名誉会長・顧問・相談役及び役員、事業計画・予算等を全会一致で承認され、「八王子市ネオテニス協会」が誕生しました。平成 17 年 2 月 23 日に常任理事会開催、その後、理事会、委員会を行い平成 17 年度の事業をスタートさせました。

平成 17 年度は、協会設立直後のため市民体育館等の競技場が使用できないので、小学校・市民センター・その他の施設をフルに活用することとなりました。そのことも含め、活動の幅を広めるため、NPO 法人八王子市レクリエーション協会に加盟。また、同年 4 月 11 日より、受託事業の市民体育館一般開放がスタート。八王子リーグ戦前期・後期は実施方法を再検討し、6 月 19 日から大和田小学校にて予選・決勝戦を 6 日間に分け実施。審判講習会については、5 月 22 日・11 月 13 日大和田小学校にて開催。

ここからは、新たな事業、特別な出来事を記載します。

平成 18 年 4 月 23 日市民スポーツ・レクリエーション大会八王子ネオテニス選手権開催。この大会は、NPO 法人八王子市レクリエーション協会の加盟団体として、毎年必ず実施すべき大会であることは勿論ですし、内容も含め会員拡大に繋がるような工夫が必要だと思います。9 月 17 日石山理事長死去。9 月 24 日市長杯争奪ネオテニスオープンを、首都大学東京南大沢キャンパスにて開催。平成 18 年度末の会員数は 310 名となる。

平成 19 年 6 月 30 日平成 25 年東京国体デモンストレーション競技として行事希望申請書提出。八王子リーグ戦は、年 1 回とし 7 月 8 日に開催。10 月 7 日八王子シニア大会開催。10 月 18 日から 6 日間、受託事業としてのネオテニス教室を実施。また、ネオテニスを「私たちのもの」とするため、商標登録するため平成 19 年度から準備を開始しました。専門家に相談したところ「ネオテニス」は既にスポーツ名として認識されているので、「ネオテニス協会」で申請しようとして提案されました。そこで、八王子市ネオテニス協会が存在する証明書が必要になりましたが、NPO 法人レクリエーション協会に加盟していたのでクリアでき、平成 20 年 4 月 18 日出願、平成 21 年 6 月 19 日登録されました。名称「ネオテニス協会」呼称「ネオテニスキョーカイ・ネオテニス」です。

平成 20 年 7 月 26 日から 5 日間、東大和市ネオテニス講習会開催。平成 21 年 3 月 15 日ネオテニス会員交流会を開催。

平成 21 年度より、交流会を年 2 回（秋・春）実施とし、10 月 18 日と 3 月 14 日に開催し、平成 23 年度より名称を前期・後期とした。

平成 24 年度は交流会を 1 回とし、ネオテニス競技会を開催。11 月 18 日東部地区ブロック大会予選会、11 月 25 日西部地区ブロック大会予選会、12 月 2 日南部地区ブロック大会予選会、12 月 23 日北部地区ブロック大会予選会を実施し、平成 25 年 3 月 10 日第 1 回ネオテニス競技会ブロック大会決勝及び交流会を開催しました。

平成 25 年 9 月 22 日第 68 回国民体育大会（スポーツ祭東京 2013）ネオテニス大会がデモンストレーション競技として開催されました。一般男子 11 ペア、一般女子 31 ペア、一般混合 19 ペア、シニア男子 10 ペア、シニア女子 25 ペア、シニア混合 20 ペア、計 116 ペアの参加により盛大に開催することが出来ました。この大会には、市内郵便局・かんぽ生命八王子支店のご後援をいただき、他の種目には無い参加記念品を参加者・観覧者全員にいただき、みんな大喜びでした。

平成 26 年 11 月 9 日市長杯争奪ネオテニスオープンをエスフォルタアリーナ八王子で開催。

平成 27 年度受託事業のネオテニス一般開放は、エスフォルタアリーナ八王子で実施。

平成 30 年度は交流会を 2 回とし、11 月 11 日チーム戦、平成 31 年 2 月 24 日個人戦として開催。

令和 2 年 1 月 19 日八王子市教育委員会主催八王子市民ネオテニス大会を共催実施することとなる。

令和 2 年春からの新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和 2 年度の定期総会が「書面表決」となり、令和 3 年度末までの事業がほとんど中止せざるをえない状況となりました。この間も、多くの会員のみなさまには、協会を維持するため年会費を納入してくださり、役員全員感謝しておりました。

このほか、協会として市民のお役に立てるよう、いちよう祭り、自転車ロードレース、全関東夢街道駅伝大会、市民レクリエーション大会などに協力しております。

今年度より役員新体制となり、新たな知恵と行動力でさらなる発展を祈っております。

顧問 和田喜久夫

はじめに

ネオテニスとは、テニスをアレンジしたスポーツで、子供から大人まで、だれもが楽しめるスポーツであり、いつも明るい笑顔と歓喜にあふれ、健康である喜びを感じられることができるスポーツです。

このスポーツは、平成8年、だれでも、いつでも、どこでも気軽にでき、安価な用具で生涯にわたりできるスポーツをと、八王子市体育指導委員協議会が考案し、平成10年から広く生涯スポーツとして普及を開始しました。

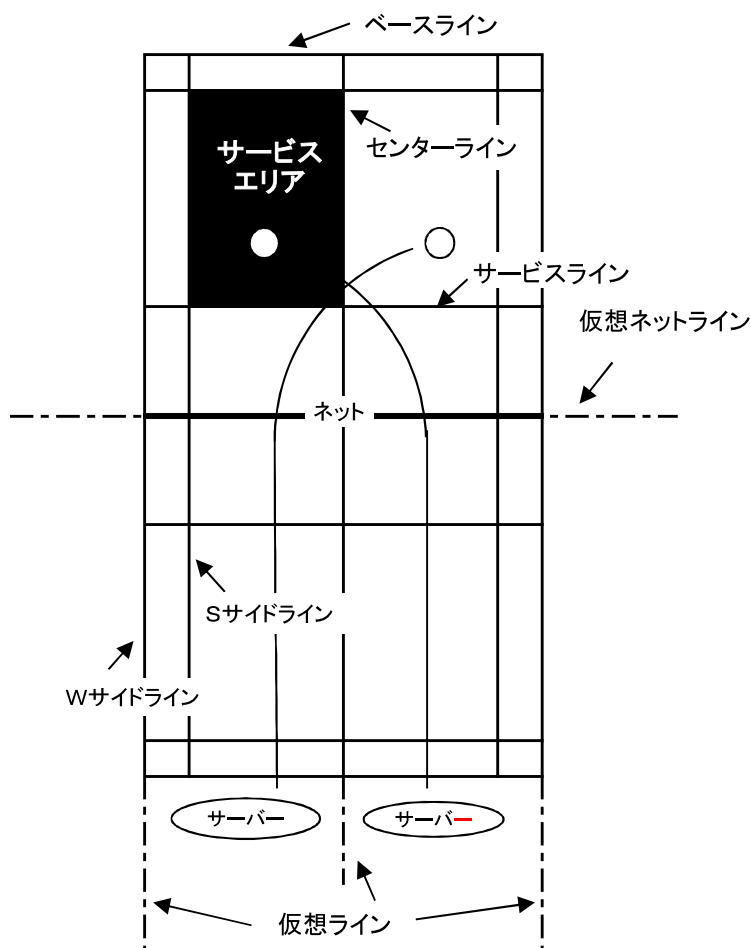
スポーツに人間をあわせるのではなく、人間にスポーツを合わせるという理念から、直径8cmのスポンジボールでだれもが楽しめるようにアレンジされています。

このだれでも、いつでも、どこでも楽しめるスポーツが、健全に普及され、全国的なスポーツへと飛躍、定着することを期待しております。

コートと競技用具

[1] コート及びネット

バドミントンコートを準備する。



(1)コートの大きさは、縦13.40 横6.10 m以内の平坦な長方形で中央はネットによって二分される。

(2)コートのラインは、バドミントンコートを使用する。ラインの色は会場により異なる。

(3)コートの両端を区切るラインをベースライン、両側を区切るラインをサイドラインと呼び、ベースラインを均等に二分するサイドラインと平行なラインをセンターラインと呼ぶ。

(4)Wサイドラインとベースライン内をダブルスコートとする。

(5)Sサイドラインとベースライン内をシングルコートとする。

(6)ネットの高さは1.0mとする。

[2] ラケット及びボール

(1)ラケットは、市販のバドミントン用を使用する。(ガットの目抜きは禁止)

(2)ボールは、直径8cmのスポンジボールとする。(DUNLOP SPONGE HG II 推奨)

競技内容

[1] 試合形式

- (1) プレイヤーのどちらか一方がトス(ジャンケン)をし、勝者がサービス・レシーブ・コートのいずれかをとり敗者は残りをとる。
- (2) サービスされたボールをレシーブした後は交互でなく、ペアのどちらが打ってもよい。
- (3) サービスレシーブのみワンバウンド返球する。その後はボレー返球でもよい。
- (4) コートは1セット終了ごとに交替する。
- (5) ラリーポイント11点3セットとし(2セット先取)第1・第2セットはデュースなし。第3セットはローテーションサービスでデュースありとし、得点をコールしながら2点差になった時ゲームオーバーを宣言する。
- (6) サービスチェンジ又は、チェンジコート、サービスの場所を間違えた場合は、それが発見された次のポイントから訂正する。それまでのポイントは有効とする。
- (7) 大会によっては、ローカルルールを設けることが出来る。

[2] サービス

- (1) ベースラインの外、仮想ライン内で行う。
- (2) オーバー及びバウンドのどちらでもよい。(空振りはミス)
- (3) サービス5本、右・左交互に行う。
- (4) サーバーはサービスチェンジをしたらパートナーと入れ替わりレシーブする。(ダブルス)
- (5) 第2セットは、最初の形に戻りサービス権交替となる。
- (6) 第3セットは、最初の形に戻りローテーションサービスとなる。
- (7) サービスは主審の得点コール後に打つ。
- (8) オーバーサービスの場合は、ボールを肩より上で打たなければならない。
- (9) バウンドサービスの場合は、ボールを腰より下で打たなければならない。

[3] サービス及びプレー中の失ポイント

- (1) サービスをミス(空振りを含む)したとき。(ネットインはやり直し)
- (2) レシーブをミスしたとき。(ホールディング・ドリブル等)
- (3) ラケットがペアを組んでる人のラケットと接触したとき。
- (4) コート内外で直接身体にボールが触れたとき。
- (5) タッチネット及びオーバーネットをしたとき。
- (6) 身体の一部が仮想ネットラインを超えたとき。
- (7) マナーに反したとき。
- (8) 主審が得点をコールした後に硬式テニスで見られるボールを床にバウンドさせる行為は失ポイントとする。

- (9) オーバーサービスの時、上げたボールを直接取ると失ポイント(体も含む。一度床に落とせばOK)
- (10) バウンドサービスの時、バウンドしたボールを直接取ると失ポイント(床に2回以上バウンドさせればOK)
- (11) サービス時のラインクロス。

[4] セーフ

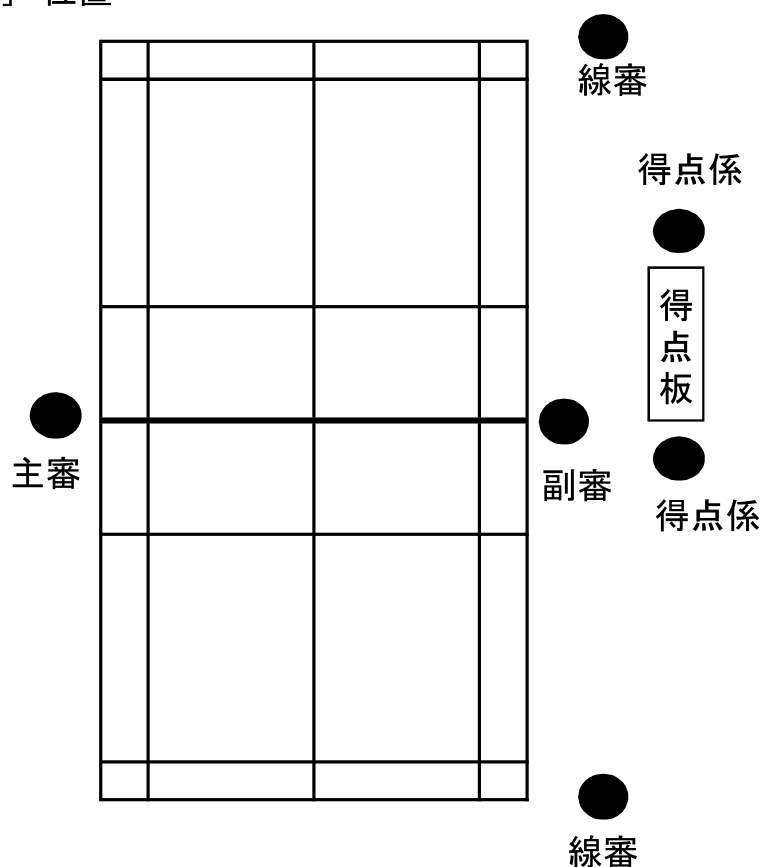
- (1) インサイドボールもしくはアウトサイドボールは、ボールの落下した地点をもって判断する。
- (2) ラインに触れたボールはすべてセーフとする。
- (3) 高さ1mの仮想ネットラインを超えて相手コートに入った時。

審判団の構成及び位置

[1] 構成

主審 1 名、副審 1 名、線審 2 名及び得点係 2 名で試合を行う。

[2] 位置



- (1) 主審はネットの一方の端に位置する。
- (2) 副審は主審の反対側の支柱付近に位置して、主審の補佐をする。
- (3) 線審は副審側に位置する。
- (4) 得点係は得点板の両サイドに位置する。

[3] 審判の権限と責務

○主審

(1) 主審は試合の始めから終了までの運営における最高責任者で、ボールがインプレーかアウトか得点を判断し、その他すべての反則を判定する。明確でないときは、副審及び線審と協議し速やかに判定を下す。

※ボールのイン・アウトを明確にする為、主審はコールと共にハンドシグナルをしっかりと行う。

(2) 主審はプレイヤーをコート中央に集合させ挨拶をさせる。副審の立会いのもとにトス(ジャンケン)をさせサービス・レシーブ・コートを選択させる。(勝者の選択権が優先)

(3) オーダー表の確認をする。(最初の形を覚えておく)

(4) 主審はすべてのコールをはっきりとする。(始めラブオール・プレー、得点のコール)主審の得点コールの後に次のサービスが開始される。

※得点のコールをする際、サービスのタイミングを明確にする為ハンドシグナルをしっかりと行う。

○副審

(1) 副審はサイドライン(ダブルスとシングルス)及びサービスエリアを見る。

※アウトを確認した時は主審にわかるようハンドシグナルで知らせる。

その際は、声を出さない。

○線審

(1) 線審はサービスエリア、ベースライン及び仮想ラインを見る。(ラインクロスを含む)

※アウトを確認した時は主審にわかるようハンドシグナルで知らせる。

その際は、声を出さない。

[4] サービスの開始

(1) 主審はサービス側、レシーブ側の体勢状態を確認した後、コールする。

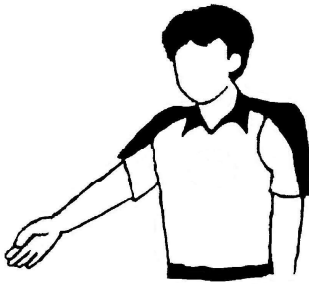
(2) ラブオール・プレーのコールで試合を開始する。第1, 第2セットはセットオーバーでチェンジコート、第3セットはゲームセットで試合を終了する。

(3) コール前のサービスはやり直しをする。

(4) 得点のコールはサービス側からする。(例 0 : 1 ラブ : ワン)

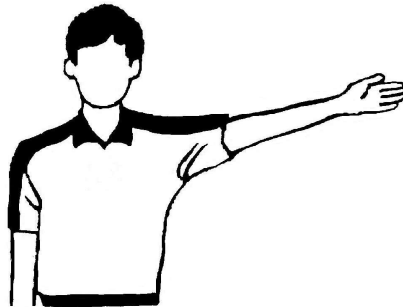
審判員のハンド・シグナル

① イン



フロアを指す

② ポイント



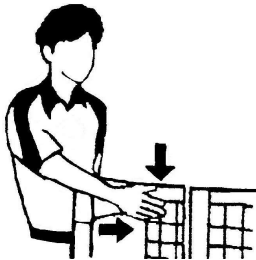
得点を取った側に手を横へ上げる

③ アウト



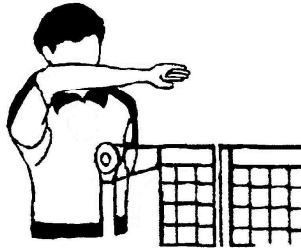
手のひらを前にして垂直に上げる

④ タッチネット



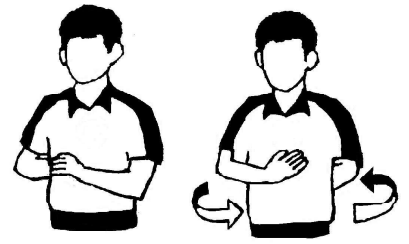
反則をした側のネットの側面を片手で触る

⑤ オーバーネット



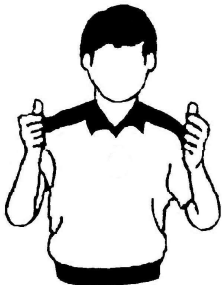
片方の手の平を下に、向け、ネットの上で横に

⑥ チェンジコート



左腕は前から後ろへ、右腕は後ろから前へ弧

⑦ ノーカウント



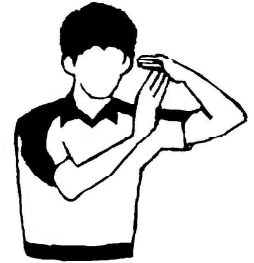
両方の親指を立て、両腕を上げる

⑧ ラケットタッチ



指先を片方の手で払う

⑨ タイムアウト



片方の腕を立て、その上に反対側の腕を横に

⑩ ドリブル



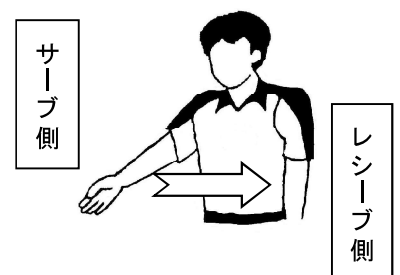
片方の手でVをつくる

⑪ ホールディング



片方の手ひらを上に向け、前腕をゆっくり持

⑫ 得点コール



片手を前に出してサーブ側からレシーブ側へ得点をコールしながら横に動かす

審判マニュアル（コールの仕方）

1. 「集合」のコールでコート中央に選手を集め挨拶をさせる。
続いて、「○△さんと○☆さんの試合をはじめます」と試合開始の宣言をし、トス(ジャンケン)をさせ、サービス又はレシーブ又はコートを選択させる。
2. 「サーバー○△さんレシーバー○☆さん ラブオール・プレー」で試合を開始する。
アウト・ポイント 0(ラブ)ー1(ワン) (サービス側)
3. 「チェンジ・サービス」
サーバー及びレシーバーの位置を確認する。
5ポイント毎にチェンジサービスする。
例: 「 4 : 1 チェンジサービス 1 : 4 」(主審のコールでサービス開始)
(フォー : ワン チェンジサービス ワン: フォー)でサービス開始する。
4. 「セット・オーバー」
例: 「 11 : 7 セットオーバー」(チェンジコート)
(イレブン : セブン セットオーバー)のコールで第1セットの試合を終了する。
5. 「チェンジ・コート」
「チェンジ・コート」のコールでセット毎にコートをチェンジする。
「セットカウント 1 - 0 第2セット ラブオール・プレー」で試合を再開する。
「セットカウント 1 - 1 第3セット ラブオール・プレー」で試合を再開する。
6. 「ゲーム・セット」
「セットカウント 2 - 0 又は 2 - 1 で○△さんの勝ち」
のコールで試合を終了する。

改訂のポイント

1. 主審・副審・線審のハンドシグナルを明確に記載。(P5)
2. 耳の聴こえにくい方の為に、主審がサーブ時の得点コールにハンドシグナルを導入。(P5 絵図⑫) 併せて旧絵図⑫のゲームセットシグナルを削除
3. オーバーサーブサービスの時、サーブの高さがこれまで「頭より上」になっていたのを、「肩より上」に改める。(P2 [2] (8))
4. 第3セットでデュースになった時、次の1点を取得すると「アドバンテージをコールする」を削除、得点コールを継続し2点差がついた時にゲームオーバーとする。(P2 [1] (5))
5. その他、文言をわかりやすくするために、追記・修正をおこなう。
(例: フォールディング→ホールディング)